

「(仮称)ヴェロマルチ山口」設立趣意書

謹啓 皆様におかれましては未曾有の災禍にありましてもますますご清栄のこととお喜び申し上げます。平素から自転車のある生活に関心を寄せて頂き当事者の一員として御礼申し上げます。

その移動や趣味の道具としての「自転車」に乗って使うことを表す「サイクリング」のような日本語をご存じではないでしょうか？因みに国際自転車競技連盟／UCIのルールブックには「サイクリングとは、レースを含むスポーツサイクリング全般」とあります。

工業製品としての「自転車」はもちろん、「自転車走行環境」「自転車利活用」「自転車乗車心得」など、ハード、インフラ、ソフト、ハートの4要素から成る自転車多様性や、歩道走行問題の再燃に際し「自転車には、歩行的利用と自動車の利用の二面性がある」と警察見解が出されたように、以下のような多様性の中の二面性も共通認識化する必要があると思います。

- ◆多様性の中の二面性
- ◎ハード：自転車（軽車両／スポーツギア）
- ◎インフラ：環境（一般道／専用道）
- ◎ソフト：使い方（日常利用／スポーツ利用）
- ◎ハート：人（自転車市民権／自転車多様性）

それは、自動車より小回りが効き、歩くより広範に使える「自転車」の利活用を考える際、二面性の境目に相当するサイクリングの法的根拠が曖昧という、第一次サイクリングブームから潜在する『日本の実情』が浮上し、議論が先に進まない場面が多々あるからです。

つきましては多様性の中の二面性を踏まえて、「自転車のある生活」に多角的に取り組む地域貢献型の団体を新たに立ち上げたいと考えており、また先の見えない状況で互いに支えあう必要も痛感しており、是非とも当団体の設立趣旨に、ご理解、ご賛同を頂き、後援や情報提供等、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

謹白

令和四年二月吉日

(仮称)ヴェロマルチ山口発起人一同

団体設立概要

- 一、団体概要／目的、組織、事業（連絡先／発起人）
- 二、組織図／理事会、事務局、分科会、外局（補足）
- 三、工程表／設立、申請、Aプラン、Bプラン
- 四、資料／山口きらめき財団前回申請書抜粋
／廃校再生サミット山口説明会資料抜粋

<(仮称)ヴェロマルチ山口>

●目的／**子供の玩具として始まり**、最も身近な市民の足であり、第一回近代オリンピックから正式種目、そして世界一周の相棒として、多様楽しめる「自転車」。しかし『日本の実情』は昭和から平成・令和と時代が進んだ今も変わっておらず、走行環境の法的根拠も曖昧なまま。その自転車走行環境を、ハード・インフラ・ソフト・ハートの4要素で考える、ユーザー+ショップ+地域が三位一体となった、“地域貢献型マルチサイクリングクラブ”として当会は、「情報発信」「人材交流」「提案型ソフト」を三本柱に、日常利用とスポーツ利用の架け橋となり、一般道の自由使用の範囲の拡大に繋がる自転車市民権の獲得と自転車多様性の共通認識化を、「先行山口」として目指すものです。

●組織・活動／目的の達成のため、下記の組織を有し、必要に応じて、イベント情報誌の発行や、提案型イベント等を行います。

◎理事会／代表理事1名、副代表1～2名、事務局4～10名、分科会5～10名、顧問3～5名
⇒情報誌編集に合わせて理事会を行う。

◎事務局／広報、企画渉外編集（西部、県央、東部）、総務、会計
⇒主に三本柱の『情報発信』を担当。

◎分科会／交流1（ソフト&ハード）、交流2（ハード&インフラ）、事業（セルフ・架け橋・混淆・ライセンス・他）
⇒三本柱の『人材交流』と『提案型ソフト』を担当。

○外局（提案型ソフトで、法的根拠が曖昧なものや一般道の目的外使用に対応する外部組織）
／街道、山道、町の道、ザッピング、チョイス、架け橋、他
⇒『提案型ソフト』は玉石混淆の見極めが必要で、外局では、グループサイクリングや山道走行、ツーリングコンペティション等を扱う。また地域と広域の守備範囲を考えながら外部顧問も置き、必要に応じてサイクリング大会や競技会にも対応する。

※自由使用と目的外使用と地域貢献：一般道の自由使用の範囲で自転車のある生活を考える「Think Cycling」。クローズドサーキットやオープンロードを問わず自転車の可能性を考える「Think VTT」。そして自転車速度で移動しながら地域の文化や自然を見つめ直す「Velo Multi Maintenance」。理想は自転車スーパー先達が所属する「地域貢献型マルチサイクリングクラブ」が、それらをバランス良く担うことだが、『日本の実情』ではそれが難しい。そこで改めて**自転車利活用の立場を超えた『自転車目線ネットワーク再構築』**を訴えたい。

<問い合わせ・連絡先>

発起人代表：弘重公朗／〒742-0021 柳井市天神並木通りCSヒロシゲ 0820-22-0645

事務局担当：國安博之／〒753-0214 山口市大内御堀4044-8 白友舎 083-927-7922

分科会担当：石丸英明／〒740-0036 岩国市藤生町1-30-6 コースクリエイト山口 090-3170-6658

(URL <http://www.bike-joy.com/VMYc.htm> E-mail bikejoyq@mbr.nifty.com)

◎発起人（順不同）／弘重**、志賀**、福永**、棟久**、松岡**、内富**、常原**、石丸**、井上**、明日香**、國安**、西尾**、為近**、光永**、三明**、市川**、村中**、永田**

※参考ページ：<http://www.bike-joy.com/JKM.htm>

https://bikejoy3.web.fc2.com/toretoreGR/JKM_EVMMMLY.htm



ロードマップ案

	2022年	2023年	2024年	2025年
1月	発起人への呼び掛け(趣意書/ポジショニング/ロードマップ)	情報集約 春号編集	情報集約 春号編集	
2月	きらめき財団説明会 →申請資料(規約、事業計画、役員名簿、フリーペーパー番号、他) 設立予定日(設立総会⇒結果発表後?)	店頭配布	店頭配布	2022総括⇒2023申請内容検討
3月	県内協力呼び掛け...交流分科会担当			2023総括⇒2024申請内容検討
4月	きらめき財団申請期限 事業展開準備...事業分科会担当	情報集約 夏秋号編集 店頭配布	情報集約 夏秋号編集 店頭配布	
5月	審査結果発表【Aプラン】 【Bプラン】	情報集約 夏秋号編集 店頭配布	情報集約 夏秋号編集 店頭配布	
6月	情報集約 夏秋号編集 店頭配布	情報集約 夏秋号編集 店頭配布	情報集約 夏秋号編集 店頭配布	
7月		情報集約 夏秋号編集 店頭配布	情報集約 夏秋号編集 店頭配布	
8月	(※全国協力呼び掛け)	情報集約 夏秋号編集 店頭配布	情報集約 夏秋号編集 店頭配布	
9月		情報集約 夏秋号編集 店頭配布	情報集約 夏秋号編集 店頭配布	
10月	情報集約 冬号編集 店頭配布	情報集約 冬号編集 店頭配布	情報集約 冬号編集 店頭配布	
11月	情報集約 冬号編集 店頭配布	情報集約 冬号編集 店頭配布	情報集約 冬号編集 店頭配布	
12月	情報集約 冬号編集 店頭配布	情報集約 冬号編集 店頭配布	情報集約 冬号編集 店頭配布	

「ロードマップ案」の【Aプラン】と【Bプラン】について

- 設立・申請・Aプラン・Bプラン・二年跨ぎ/前回の申請で不採択の理由が、立ち上げに向けた設立準備委員会だったので、今回は正式立ち上げが必要条件となります。しかし十分条件ではないため、可の場合の【Aプラン】と、否の場合の【Bプラン】も想定したいと思います。
- ◎設立/発起人と設立総会と零プラン
 - ⇒発起人：設立趣意書を作成し、1月中に10~15人へ依頼。
 - ⇒設立総会：発起人の同意を全会一致か、書面で得る。3月中旬までに。総会は、審査結果の確定後に行う?
 - ⇒零プラン：添付書類用のフリーペーパー番号(3/20発行予定)の情報収集と、西部、県央、東部での夏秋の模索企画の仕込みやロゴマーク協賛依頼。
- ◎申請/3月末締め切り~5月中旬交付式 (※前回提出書類等/※掲載ページ：https://bikejoy2.web.fc2.com/ICD_SSK.htm#1)
 - ⇒申請書類 (※申請書、団体概要書、事業計画書、事業収支予算書)
 - ⇒添付資料 (※役員名簿、規約、予算書、模索企画資料、フリーペーパー番号)
- ◎Aプラン/予算あり
 - ⇒総会/出来れば交付式後、5月中に開催。
 - ⇒フリーペーパー/予算に合った体裁を考え、夏秋号、冬号、春号を作成。 ※サイクルショップ&サイクルステーションに配布。 ※ロゴマーク広告への協賛依頼。
 - ⇒模索企画1/西部・県央・東部のステーション&ショップを巡るコマ地図ブルベ。
 - ⇒模索企画2/西部・県央・東部の過去実施済みエリアでの学習トレジャー26。
 - ⇒模索企画3/ライセンスメンバー募集。
 - ⇒その他/西部・県央・東部に分けた情報収集&連携協力ネットワークの整備。
- ◎Bプラン/予算ナシ
 - ⇒総会/時機を見て年内に実施。
 - ⇒フリーペーパー/A3裏表版として、ロゴマーク協賛の範囲で秋号を作成。その様子を見て冬号、春号を検討。 ※有料配布を検討し、協力施設に限定配布?
 - ⇒模索企画1/協力ステーションや協力ショップの有無を見極めて検討。
 - ⇒模索企画2/他団体と連携が可能なら実施を検討。 ※例：廃校再生サミット山口
 - ⇒模索企画3/総会で詳細を検討した上で。 ※その他のネットワーク整備も同様。
- ◎二年跨ぎ/助成金や行政や学校は年度で動いているが、そこには微妙なズレがある。日常利用とスポーツ利用の架け橋となる「春書をソフト」をカバーするには、それを見越した年度跨ぎ企画が必要? 「模索企画3」を組み立てる際、または、2022総括で検討する。

